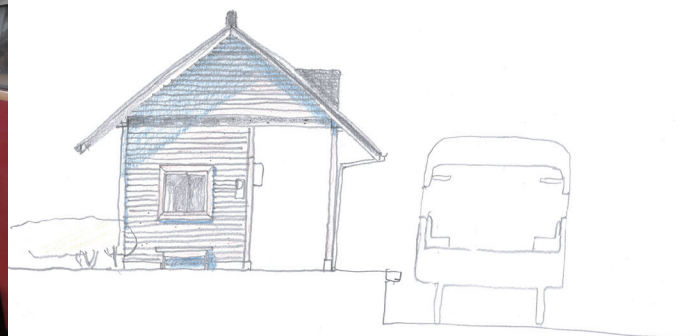




▲ 里見駅では合間の時間に飲みや軽食が販売されている



▲ 上総中野駅スケッチ

人口の少ないところでは市町村の負担のため全国で鉄道が廃止される状況が続いている。



▲ 上総中野駅にて「いすみ鉄道」の臨時運行バスが出迎え

小湊鉄道の歴史には、「房総丘陵未開の地に住む人々に明るい文化の光を与えてほしいとの熱涙下る懇請」で、当時の財閥の安井善次郎は将来共利益が出ないことをわかっていて、千葉をつらぬく鉄道に投資することを決めたという（遠山あき・「小湊鉄道の今昔」庵書房）。その前にも小湊鉄道を設立するまでの、第九十八銀行頭取など発起人の資金難への格闘の経緯も詳しい。

山間の景色を通り抜けた小湊鉄道で、駅舎の建築の素材が、日本のそこら中の駅舎がどこに行っても代り映えないのに、本物の素材でひっそりと残っていることが貴重な印象を受けた。

小湊鉄道という名前が残っていたのも、当初の計画では小湊までつなげる計画がそのまま継がれているという。臨時運行バスでは時間が限られ、我が家の夕餉に間に合

いそうもないことがわかり、大多喜町の再見分はあきらめ、運行バスに再び乗せていただき大原駅から帰宅した。いすみ地方を訪れる企画を景観チームが放棄したわけではない。



◀ 小湊鉄道開通の略図大正4年のはがき：前掲著より